

ほん屋

15号店

2018 (平成30) 年 7月
店主：図書館学生アルバイト

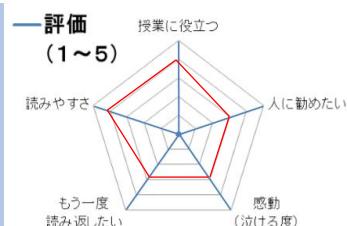
今年も半年近く過ぎ、時の早さを感じます。
皆さんは、実りある半年を過ごすことができましたか…？
残り半年も気張っていきましょう。
※この発刊紙は、学生が作るニュース(図書館発行)です。
“ほん屋”of the students, by the students, for the students.

『決定版 写真記録 沖縄戦』

著者：大田 昌秀

川満 悠里
(専攻科1年)

この本は、タイトル通り沖縄戦での様子を
写した写真が数多く掲載されています。また、
写真とともに沖縄戦についてわかりやすく
解説しており、沖縄戦がいかに悲惨なもの
だったのかがよくわかります。先日、6月23日
は慰霊の日でしたが、この本を読んで、もう
一度沖縄戦について考えてみてはどうでしょうか。

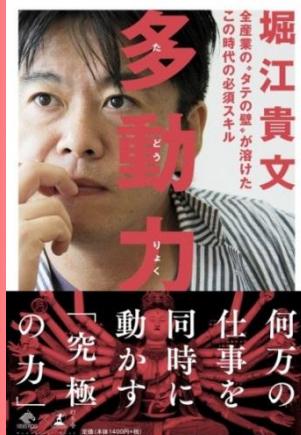
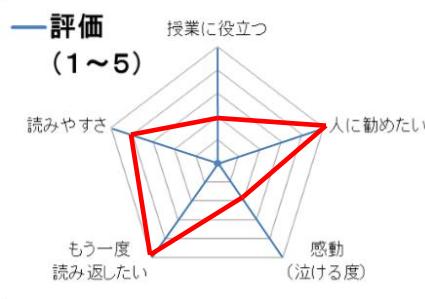


『多動力』

著者：堀江貴史

金城 匡佐武
(専攻科2年)

在学中に就職活動を行い、定年まで
働く会社を定める。そんな終身雇用の
時代が終わりそうな傾向にある世の中
に持ってこいの一冊だと思えます。
一つの会社で一つのことを追求し極める。
読んでいくうちに昔ながらのそんな考え
を覆したくなります。今までの常識が
常識ではなくなるような多種多様で変化
の多い時代に、自分に足りないものは
何か考えさせられる内容でした。



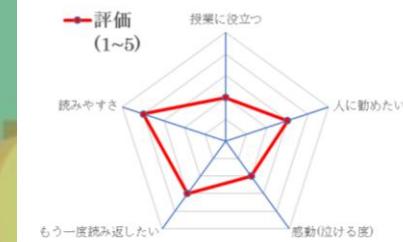
『ドイツ軍の秘密兵器1939-45』

著者：ロジャー・フォード

西銘 政紀
(専攻科2年)



この本では、第2次世界大戦中にドイツ軍が使用
していた代表的な兵器について写真や図などと
ともに解説されています。大戦中でありながら、現代兵
器の先駆けとも言えるロケットやミサイルなどの航
空兵器から、強力ではあったものの前線での運用面
やコストなどを考慮せずに関係された戦車、そして
連合軍を苦しめ続けたUボートに代表される潜水
艦など、性能面だけでなく、開発の歴史についても
記述されています。ゲームなどで見かけて興味を
持った方にオススメの一冊です。



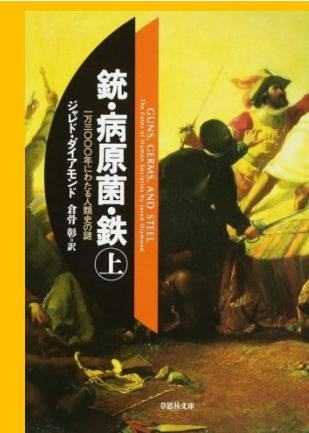
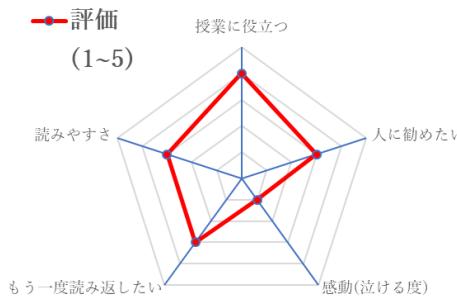
『銃・病原菌・鉄』

著者：ジャレド・ダイヤモンド

訳：倉骨彰

内里 開
(専攻科1年)

先進国と発展途上国はなぜ
差が生まれたのか。その原因
となったのは、銃・病原菌・
鉄の三つである。では、なぜ先進国は
その三つの利器を手に入れることが
できたのか？人類が誕生したころ、
皆等しく狩猟生活をしていた。
そこからどうやって「格差」が生じた
のだろうか。人類史の謎を人類誕生
から、文化に注目して紐解いていく一冊である。



編集後記

梅雨も明け、台風が遊びにやってくる時期になりましたが、読者の皆様は順調でしょうか？学年や授業によってはそろそろ大型レポートが出されてくるかもしれませんね。インターネットなどを利用して調べ学習を行うのも有効ですが図書館で本を手に取りながら調べるのもいいと思います。これからもほん屋をお願いします。

